



# つつじ会だより

静岡県在宅保健師の会「つつじ会」

設立 30 周年・保健文化賞受賞記念式典

号外

富士山を眺望できる天候にも恵まれ、令和 4 年 6 月 3 日(金)日本平ホテル(静岡市清水区)に於いて、静岡県在宅保健師の会「つつじ会」設立 30 周年及び第 72 回保健文化賞受賞記念式典を開催しました。国保中央会理事長 原 勝則 氏、静岡県健康福祉部部長代理 後藤 雄介 氏を来賓にお迎えし、つつじ会OG・現会員ほか総勢 54 名の出席のもと、盛大に行われました。式典の様子をお伝えいたします。

## 主催者挨拶

＜国保連合会理事長(富士宮市長) 須藤 秀忠＞

平成 5 年のつつじ会設立以来、本会及び国保保険者における保健事業の支援をはじめ、地域住民の健康づくりに尽力いただいている。家庭訪問事業においては、延べ 1 万 5 千人を超える方々へ訪問し、健康寿命の延伸に貢献されてきたことに感謝申し上げる。

現在の保険者の状況は、マンパワーの確保が十分ではなく、今後在宅保健師の保健活動への期待が重要となること、また人生 100 年時代を迎え、制度的には「後期高齢者」と言われるが、誰もが光輝く「高輝」を放ち、香り麗しい「香麗者」として活躍できるようにこれからも支援いただきたい。

＜つつじ会会長 鈴木 富士子＞

本日の式典にご臨席いただいた来賓の皆様、行政関係者並びに地域の皆様、つつじ会の諸先輩方に対し、日頃からご支援、ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

つつじ会設立 30 周年という節目に保健文化賞受賞という栄誉に輝き、天皇皇后両陛下に拝謁し、活動の継続について励ましのお言葉を賜った。「保健師が行う家庭訪問は意義がある」と認めていただいたことは非常に感慨深い。つつじ会の活動の根底にある「先輩の方々の保健師としての強い信念と地域・住民への深い思い」を受け継ぎ、今後も市町に対して私たちにできることを地道に続けていきたい。



## 来賓祝辞

＜静岡県健康福祉部部長代理 後藤 雄介 氏＞

つつじ会の長年にわたる家庭訪問等の保健活動は、地域住民の生活習慣病の重症化予防や介護予防、静岡県の健康寿命の延伸に貢献していただいている。

今回の保健文化賞受賞は、つつじ会の活動が市町と住民を繋ぐ架け橋となり、地域の健康づくりを進めてきたことが高く評価された。

県民総ぐるみの健康づくりを推進するためには、地域の課題を正確に把握することや、関係機関との連携は益々重要で、在宅保健師として活動されてきた皆様の知見や協力が欠かせない。

設立 30 周年及び保健文化賞受賞を機に、皆様の活動がさらに発展されることを期待する。



## 国保中央会 原理事長による記念講演

### 「人生 100 年時代における在宅保健師の役割」

～地域に寄り添い 30 年、これからの活動に期待すること～

国民健康保険中央会 理事長 原 勝則 氏による記念講演が行われ、地域包括ケアシステムや地域共生社会の構築は、地域づくりであり、「在宅保健師等の皆さんは、地域の健康づくりの主役であり、相談役です！」と在宅保健師の活動に対する期待を語っていただきました。



#### I 人生 100 年時代とこれからの保健事業

- ・ 100 歳まで生きるのが普通となる時代  
超長寿社会の到来
- ・ 全世代型社会保障改革  
人生 100 年時代の到来をチャンスとして前向きに捉え、働き方の変化を中心に据えて、年金、医療、介護、社会保障全般にわたる改革を進める。これにより、現役世代の負担上昇を抑えながら、令和の未来をしっかりと見据えた、全ての世代が安心できる社会保障制度を構想する。

#### II 「自助と互助の取組」から「高齢者の保健事業と介護予防の一体実施」へ

- ・ 地域包括システムの構築  
自助（健康づくり・介護予防）と互助（生活支援・住民主体の支え合い）
- ・ 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施（令和 2 年 4 月開始）

#### III 保健事業の最近の動きとデータヘルスの推進

- ・ 「新たな生活様式」に対応した予防・健康づくり、重症化予防の推進
- ・ ポピュレーションアプローチの強化
- ・ 無関心層や特定健診受診率の低い 40～50 歳代の受診に向けた取組強化
- ・ 都道府県の役割の強化

#### IV これからの保健事業の方向と在宅保健師等会への期待

- ・ データヘルスの推進 … ビッグデータ、KDB システム等の利活用
- ・ 生涯を通じた健康づくり … 保険者間の医療・健診等の情報連携
- ・ 地域づくり … 地域包括ケアシステムや地域共生社会の構築は、「地域づくり」

最後に「私見」として今後の保健事業における在宅保健師への熱い期待を語られました。

- ・ ご自身も地域の中で住民の一人として健康に暮らす、そして専門家として培った知識・経験を活かしてほしい。  
「地域の健康づくり」にぜひとも関わってほしい。
- ・ 在宅保健師の会の活動を支援する国保連合会に期待する。



## つつじ会 交流会

記念講演の後は、昼食をはさみながら、つつじ会初代会長 松下とき子さん（94歳・磐田市）をはじめとしたOGの皆さんと現会員の交流会が行われました。

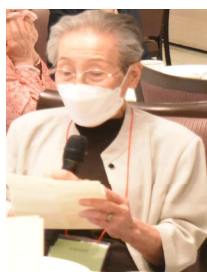
「思い出のスライド」の上映やこれまでの活動に関するインタビューもあり、終始和やかな雰囲気の中、進行了しました。



乾杯挨拶 山田 副会長



OG・会員10名に  
インタビューしました



つつじ会の活動の思い出やエピソード等、多くのお話を伺いました。そこには対象者の思いを傾聴し、寄り添う保健師の姿勢が根底にありました。また、つつじ会に入会したいきさつや年齢もキャリアも違う中で「保健師」という共通の職種で繋がり、励まし合い、高め合いながら会が存続してきたことを感じました。そして、地域での具体的な実践例をお聞きし、保健師職は地道な仕事の積み重ねであると改めて気づかされ、深く共感しました。





## 閉 会 挨拶

閉会にあたり土屋副会長から、『超高齢化社会の課題は健康寿命を延伸し、誰もがより長く元気に活躍できる社会の実現にある。令和6年度までに全ての市町村が展開することを目指している「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施」について、高齢者の健康状態不明者の家庭訪問や高齢者の重症化予防の家庭訪問、通いの場での健康相談等で、つつじ会も今後関わっていけると考えている。

評価していただいた「保健師が行う家庭訪問」をこれからも高めていきたい。』と今後の「つつじ会」の活動について思いを込めた挨拶がありました。

～終わりに～

皆様からいただいたお言葉を胸に、今後も時代に即した活動を継続できるよう、会員・事務局・関係者一同で協力していきたいと思っております。  
何卒よろしくお願い申し上げます。



閉会挨拶 土屋副会長

